

我等固より驚駭に鞭ち、この精神を高揚に努めると同時に、一日も速かにその完璧を期する事に努力する覺悟であるが、然し實際問題として、前途には猶ほ幾多の困難があり、しかも、他派門下の合同から、進んで四海歸妙・事壇建立の暁を期するに至つては、前程頗る遼遠と言はねばならぬ。

切に次代の宗門を荷ふ諸君、及び將來後進の人々の、力強き自覺と、撓まざる努力とを期待し熱望してやまぬ次第である。

## 宗政復古に當り青年學徒の奮起を望む

柴 田 顛 秀

桃栗三年柿八年と云ふから、植えた本人が必ず喰べ得るとは限らないが、その美しい果實は必ず縁ある者が頂戴するに違ひない。

本宗の先師先哲に依つて幾度か企劃され幾度か失敗に終つた祖廟中心制度が、事變下の本年を以

て確立し宗門多年の宿願たる身延山法主永代管長の實現を見るに至り、吾が宗政が始めて祖廟中心の大義を存し名實共に全きを得て、今や祖山は全宗門を統一強化する根本樞軸となつた、祖山がこの一切開放の壯舉を斷行したことは將に宗門の維新祖山の黎明を告げたものである。既に祖山は斯くも遠大雄渾なる大理想の實現に向て猛然として蹶起したのであるから、是非共美味しい果實の収獲を期さなければならぬ。吾等は幸にも宿縁深厚にしてこの光榮に浴するを得た、眞に感激感謝に堪えざると俱に新に使命の重且つ大なるを痛感せざるを得ないのである。

然しながら獅子の乳は琉璃瓶に非ずして之を貯れば則ち裂け、萬鈞の鼎を擧げて荷ふに一葉の舟を以てすれば顛趾して溺れざるは幾ど希なりと古人が云はれてゐるが、文をしてその質に伴はしめんとすることは頗る至難のことである。

祖廟中心制度もその主眼とするところは眞に身延山をして高祖大聖人の御遺言遊ばされた如く、日蓮が弟子檀那全體のものであることを御門下の緇素悉くが明瞭に認識され、自誓自發して給任行法の奉仕を盡され、弟子檀方としての眞面目を遺憾なく發揮されんことである。折角制度が立派に確立されても之を徹底せしめ具體化するには、その多くは永き將來に涉つて、堅忍不拔の努力を必要とする。若しその運用に至つては毫末も遺憾の點があつてはならない。立派な制度を以て自由自在に活現せんとする、それは結局人材法器に待たなければならぬ。大法の隆夷はその人に存す、



獅子の乳を盛るべき器、萬鈞の鼎を荷ふべき舟にして不幸その當を得ざれば、その結果は思ひ半に過ぐるものがあらう。

聖語に、魚の卵は多し魚となるは少し、出家するものは多し、然れども眞の僧侶となるは稀なり。と仰せられたるを思ひ合すとき、最も痛切に感ずることは、桃栗以上の歳月を経なければ結實しない宗門育英の充實である。今や宗門は大旱に雲霓を望むよりも龍兒鳳孫を期待することはより以上に甚だしい。

常に大事に當つて雷激の如くに腦裡を去來するものは先師先徳の懿徳を追慕する至情である。上に於ける朝意傳の三師、中世に當る重乾遠の三師、近くは明治維新宗門中興の薩鑑修の三師方が、宗門史上に残された偉蹟法勳は今改めて喋々を要するまでもないが、特に今範を近き先哲に需むれば實に充治園の學風と、薩鑑兩上人の道風徳香を私叔して息まないものである。兩上人の道徳、學問、事業等は更なり、就中今日の吾等が竊かに需めんとするものはその大運動の淵底をなしたるあの強き堅き本化別頭の道念である。

この話は大事に臨まれた兩上人の心境と覺悟を傳へられて餘りにも多く人口に膾炙されてゐるが、明治四年の頃、東京に於て外人ブルベツキが基督教に依つて吾が佛教に對し盛んに猛撃を浴せたまさ、或る日、日薩上人は當時下總の内山に居られた日鑑上人の許に一書を寄せられた。その一節に

曰く、平素の所學今以て用ゆべし、誓つて身を以て教門の犠牲となすべし。と日鑑上人は一見直ちに下總を出立された。別離を惜しむ門下生一同に向はれ、馬上より意氣昂然として、「今度己は生きて歸ることはないぞ、みんなよく學問しろよ」と唯一言云はれたのみであつたと云ふ。

東京に於て兩上人が會見されたとき言寒著に涉らず、日薩上人は唐突に、どうしよう、と聞かれた。日鑑上人は、死ぬのよ、と答へられた。それに應じて日薩上人は、そうだ、と詰られた。どうしよう、死ぬのよ、そうだ、この悲痛なる不惜身命の三語が、兩上人をして各宗を率ひてブルベツキ退治に大捷を博し更に進んで明治維新の難關を突破して、宗門をして今日あらしめたる中興の大業を完成されたと云はれてゐる。宜なるかな、その道念の動かざること山嶽より重く、聲譽の流れて塞らざること大海も及ばず。

噫、日薩日鑑兩先徳の残されたるこの三言は。今猶吾等後學の箴砭規矩として深く心肝に染みて貴さを禁じ得ない。深草の元政上人は、縦ひ一切の書を讀み一切の事に通ずとも若し菩提心なくんば愚者の深信にして欺かざる如かず、知辯あつて道心なきもの動もすれば法を破し人を壞すと。

宗門維新の幕は切つて落された。祖山の靈峰は黎明を告げてゐる。

奮起せよ宗門の青年學徒！そして獅子窟中悉く獅子となり梅檀林下純ら是れ梅檀ならんことを祈つて息まないものである。